

2011年8月5日(金)

「社会・国語・理科の予習ノート」の作り方

開倫塾

塾長 林 明夫

Q:「予習はわからないところをはっきりさせてから授業に臨むために行うものである」という考えが、「英語」と「数学」の「予習ノート」の作り方のお話で少しずつわかってきました。「社会」や「国語」、「理科」はどのように「予習ノート」を作ればよいのですか。

A: (林明夫: 以下省略)

- (1)「社会」や「国語」、「理科」の「予習ノート」の作り方のお話をする前に、私の中学校、高校時代の思い出話をしばらく読み下さい。
- (2)私は、社会の中では、今中学生や高校生が勉強する科目で言えば、中学校3年生の「公民」と高校1年生の「現代社会」、高校3年生の「政治・経済」が大好きでした。今は高校ではあまり勉強しないようですが、高校2年生の「倫理」もかなり好きでした。(開倫塾の名前の中にある「倫」は、高校の「倫理・社会」から取ったほどです)
- (3)なぜ好きになったのかと言えば、中学校3年生のときに「公民」の教科書を手にしてパラパラとページをめくっているうちに、教科書があまりにも面白くて1ページから最後のページまで一気に読んでしまったからです。
- (4)あまりにも面白い内容だったので、読んだあと少しまじめに勉強しようと思い、教科書をまとめて大事な項目だけ「ノート」に「写し取る」ことをしました。部活動と生徒会活動が激しかったので、「公民」の教科書の大事なところを写し終えるのに1か月かかりました。
- (5)柔道部は、中2の秋の新人戦の県大会で優勝していたので、中3の夏の県大会でも優勝せねばとかなり激しい練習をしていました。生徒会では、1学年10クラスで440名もいる大きな中学校の生徒会長をしていましたので、かなり行事があり、中学生としては多忙でした。部活動や生徒会でヘトヘトになるほど超多忙でしたが、なぜか「公民」の教科書だけは手放しませんでした。
*学習塾にも週3回通っていました。
- (6)なぜ「公民」が面白かったのか。「地理」や「歴史」は、「公民」と比べて「理解」し「定着」すること、つまり覚えることがあまりにも多すぎて、なぜそのような出来事があったのかという「歴史のなぜ」や、日本や世界各地で何がなぜ行われているかという「地理のなぜ」を考えるとところまでいかなかった、その余裕がなかったからです。
- (7)しかし、「公民」や高校で習う「現代社会」、「倫理」、「政治経済」は、教科書をよく読むだけでなぜそうなのかがよくわかったからだと思います。
- (8)なぜよくわかったかと言えば、小学校3~4年生のころから、新聞を毎日かなりの時間読んでいたからです。学校の先生に、新聞は小学生でもよく読むようにと言われたためです。

(9)新聞を毎日読むようにと教えて下さったのは、小学校 3・4 年生のときのクラス担任だった岡典子先生です。当時の社会党の市議会議員さんの奥さんだったので、とても進歩的だったのかもしれませんが。新聞を読んでいる人にとって、「公民」や「現代社会」、「倫理」、「政治経済」の教科書ほど面白くて有り難いものはありません。

(10)新聞で毎日の出来事・事件として断片的に入っていた知識の根本、基本が、教科書には体系的に示されているからです。

(11)これと同じように毎日本ばかり読んでいる人は、「国語」の授業や「国語」の教科書を読むのが好きだと思います。新聞の「科学のコーナー」や「科学の雑誌」を家や学校の図書室、図書館で読んだり、自然の観察や実験が好きな人は、「理科」の授業や「理科」の教科書を読むのが大好きだと思います。

(12)残念なことに私は、自然に親しんだり、空を見上げて星を見たりすることがほとんどなかったためか、高校に入るまでは「理科」にはあまり興味もてず、得意ではありませんでした。ただ、高校に入ると、生物や地学、物理、化学はその分野の専門の先生方から教えて頂いたためか、こんなにも面白いものかと感激さえしました。生物の時間に、当時はあまり知られていなかった DNA の話を聞いたときには本当に驚きました。

(13)「予習ノート」の作り方の前に私の昔話をお読み頂き申し訳ありませんが、「社会」と「国語」、「理科」の勉強で大事なものは、新聞を毎日のように読む、読書をする、自然や天体に親しむなど、それらの科目の前提となる日々の「知的な生活」だと私は思います。

(14)まとめていうと次の通りです。

新聞を読むことほど、「社会科」のよい勉強や予習となることはありません。

読書をコツコツと行い^{しりよぶか}思慮深さを身につけることほど、「国語」のよい勉強や予習となることはありません。

自然や天体に親しみ、自分で実験や観察をすることほど、「理科」のよい勉強や予習となることはありません。

是非、このような活動、「知的な生活」を小学生・中学生・高校生のうちからそれなりに心掛け、各科目の勉強、「予習」として下さいね。

Q：各科目の「予習ノート」はどのように作ったらよいですか。

A：(1)英語や数学と全く同じです。

(2)B 版ではなく、たっぷり書き込める「A 版のノート」を使いましょう。今日授業で勉強する教科書のページを読む前に、1 ページめから今までに勉強したところまでをすべて声を出して読むこと。「音読」することです。

(3)どうしても「音読」したくない場合は、「黙読」(声を出さずに^{もくどく}黙^{だま}ってモクモクと読むこと)をすることです。

(4)そして、「予習ノート」の日付の横に「 ページから ページまで、音読、黙読」と「記録」しておきましょう。

必ず実行すべきこと

予習として、その日の授業の範囲を勉強する直前に、今までに勉強したところを、教科書の

1ページから今日勉強するページの前まで「音読」または「黙読」し、今までの勉強の「定着」をさらに図ること。

これから勉強する新しいことを 100%完全に「理解」したければ、それまでに勉強したことを教科書の1ページから 100%「定着」させること。

この夏、成績を飛躍的に向上させる秘訣はこれです

- (5)次に、教科書を「項目」ごと、「章」ごとにていねいに読み、「項目」や「章」の見出しを「ノート」に「書き写す」こと。
- (6)その下に要点を簡単にまとめて書き込むこと。これだけで「予習ノート」は十分だと思います。
- (7)ただし、意味がよくわからない「ことば」や「語句」があったら、「国語辞典」で「ことば」の意味を調べ、その意味を「ノートに書き写す」こと。
- (8)意味や内容がよくわからない「語句」があったら、各科目の「用語集」や学年別の少し厚めの参考書、「地理辞典」、「歴史辞典」、「公民(政治経済)辞典」、「小学理科辞典」、「中学理科辞典」、「生物辞典」、「物理辞典」、「化学辞典」、「百科辞典」などを用いて調べ、その内容を「ノートに書き写す」こと。
- (9)辞書などで調べた「ことば」や「語句」、その「意味」や「内容」がよく「理解」できたら、その場で「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返して覚えてしまうこと。これが、最も賢く、堅実な予習の方法だと私は考えます。「予習」のときの「音読練習」と「書き取り練習」だけで成績は一挙に上がります。
- (10)ここまで「予習」をして、何がわからないかがはっきりしてきたら、自分なりの「よくわからないマーク」を「ノート」に「メモ」し、授業に臨んで下さい。きっと学校や開倫塾の先生方の授業が待ち遠しくて仕方がなくなりますよ。
- (11)「予習ノート」のどこに何を書くかは、塾生の皆様が自分の力でお考え下さい。どうしてもわからなかったら、学校や開倫塾の先生方に遠慮なく質問しましょうね。きっとよいアドバイスをして下さいと思います。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)教科書で紹介している「本」を「学校の図書室」や県や市や町立の「図書館」で借りてじっくり読むのも、大事な「予習」です。(これは授業が終わった後でも OK です。私など、今ごろになって小学校や中学校、高校の教科書に載っていた本を思い出したように読み、これはいい本だなと一人感じ入っています)

(2)今日は、これから私が理事長を務める学校法人有朋学園、有朋高等学院の理事会があるために福島市に出掛けます。そのため、今日のお話はこれでおしまいです。

(3)今までの私の文章を何回も読み返して、勉強の仕方、特に「定着」の仕方をしっかりと身につけて下さいね。

以上